

## 母の日・父の日、子「何かする」6割も、「してほしい」母5割、父3割 意向差が鮮明。実施率・予算とも母の日が上回り、母の日 5,102 円、父の日 4,736 円

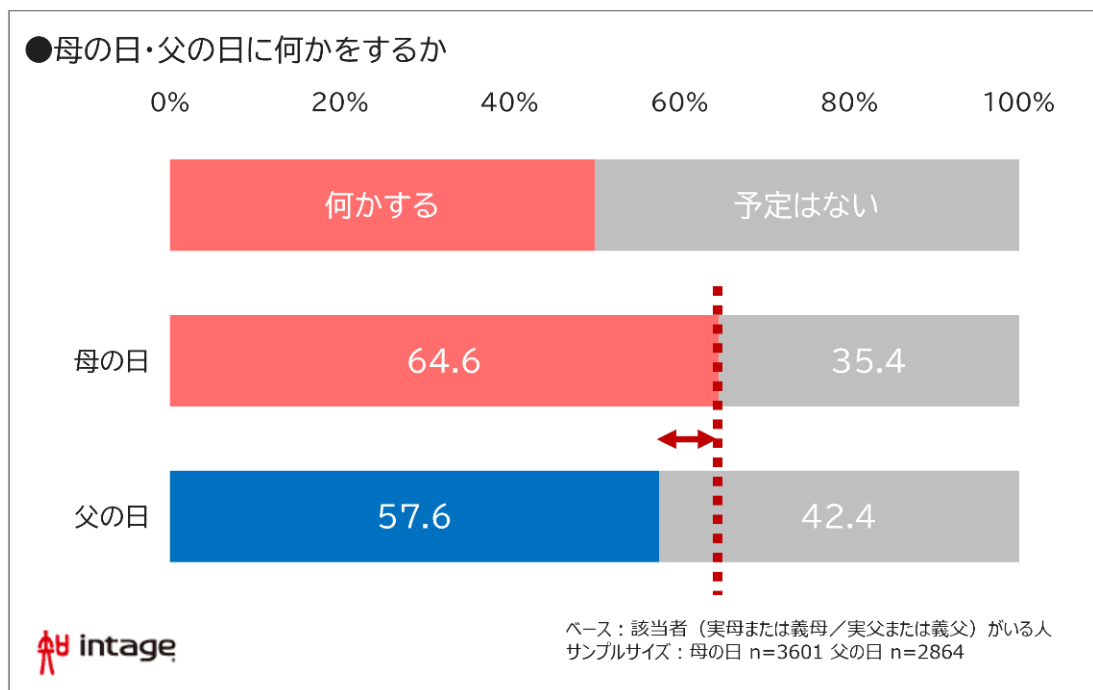
株式会社インテージ(本社:東京都千代田区、取締役社長:檜垣 歩、以下インテージ)は、3月25日~3月30日に全国の15歳から79歳の男女(5,000人)を対象に実施した母の日・父の日に関する調査結果を公開します。

### [ポイント]

- ・母の日に「何かする」人は母がいる人のうち64.6%。父の日は57.6%と母の日が上回る
- ・一方でこの日に「何かしてほしい」母は47.8%、父は30.9%にとどまる
- ・子のプレゼント1位は、母へ「スイーツ」、父へ「飲み物」に対して、親としては「感謝の言葉」が一番うれしい
- ・予算は母の日5,102円、父の日4,736円で、母の日が366円上回る。物価高続くも、昨年水準を維持

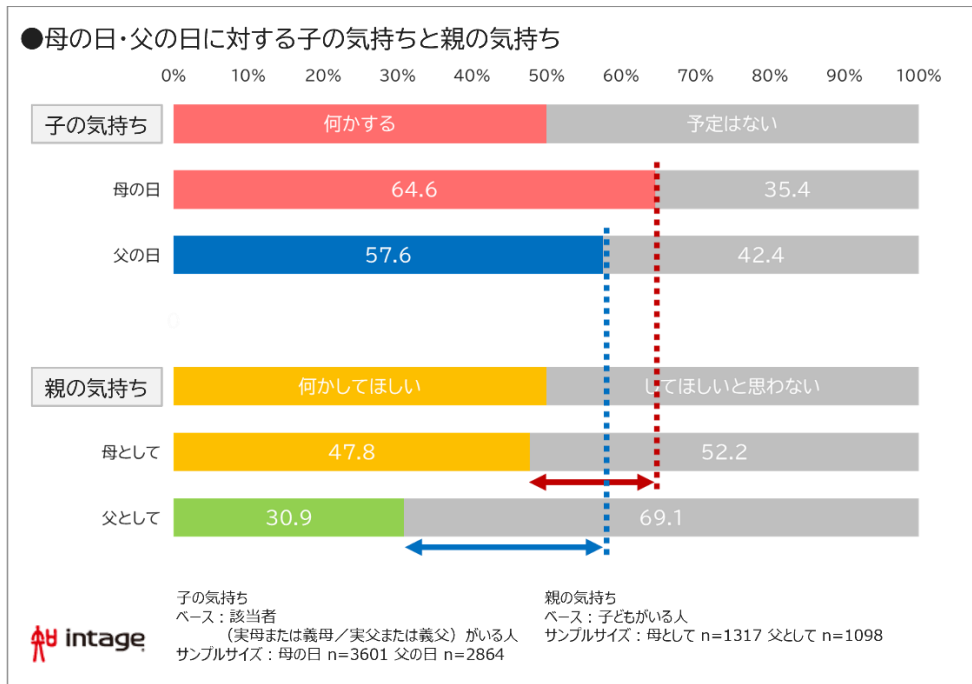
母の日に何かする人は、母(実母または義母)がいる人のうち64.6%。父の日は57.6%と母の日が上回っています(図表1)。母の日・父の日いずれも男性に比べて女性で高く、母の日は、女性の70.9%、男性の58.5%が何かすると回答しています(父の日:女性62.6%/男性52.9%)。

図表1



次に、母の日・父の日に対する親の気持ちを見ると、「何かしてほしい」と回答した母親は、47.8%で、子との意識の差があることが分かります。さらに、父親については3割程度と、大きな意識の差が確認できました(図表2)。

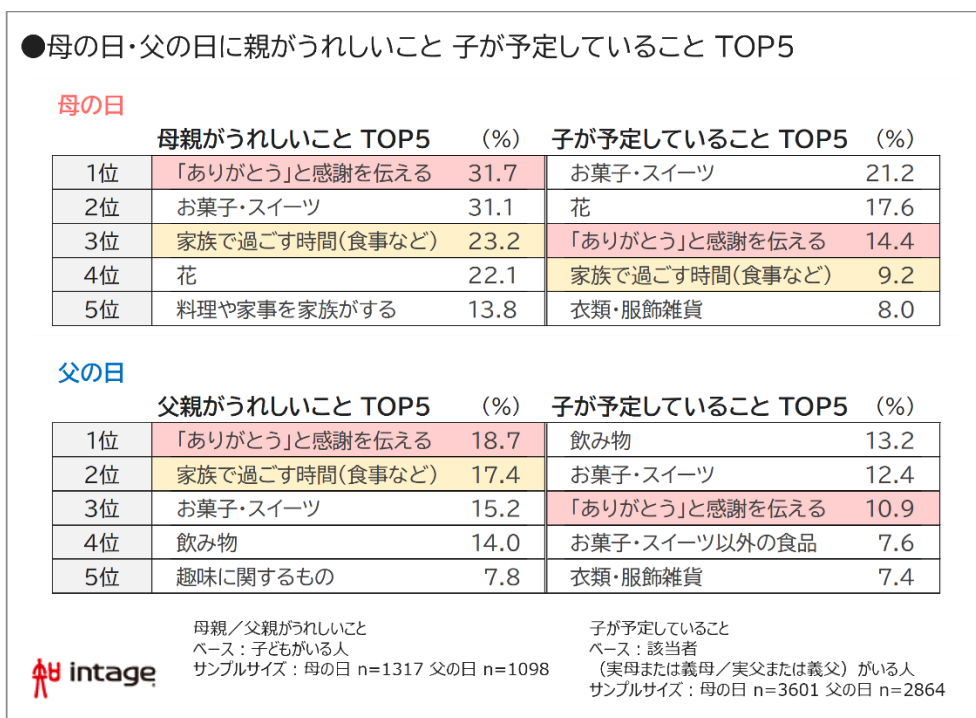
図表 2



子と親で意識の乖離が見られましたが、では具体的に母親、父親がしてもらえると嬉しいことと、子が母の日・父の日に予定していることを比べてみました。

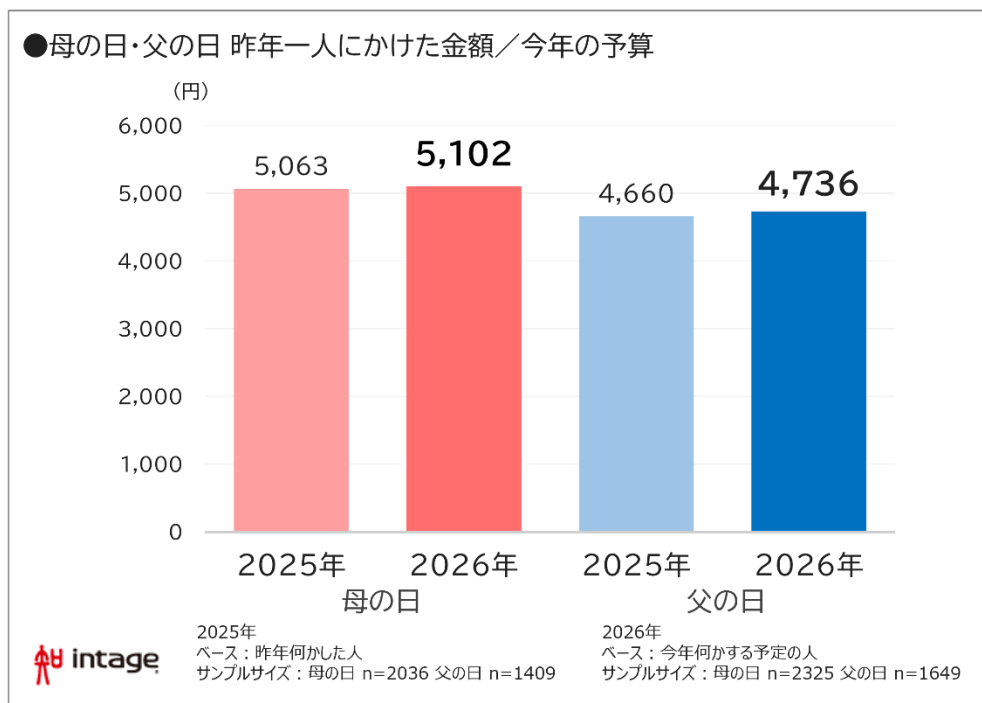
母親、父親がしてもらえると嬉しいこととして最も多かったのはいずれも、『『ありがとう』と感謝を伝える』(母親 31.7% / 父親 18.7%)で、「家族で過ごす時間(食事など)」も母親 23.2%、父親 17.4%と上位に挙がりました。一方で子は、母親へ「お菓子・スイーツ」(21.2%)や「花」(17.6%)、父親へ「飲み物」(13.2%)や「お菓子・スイーツ」(12.4%)を予定しており、親は“コト”、子は“モノ”を選ぶ傾向がうかがえます(図表3)。

図表 3



最後に、昨年一人にかけた金額と今年の予算平均を見ると、今年の予算は母の日 5,102 円、父の日 4,736 円で、母の日が 366 円上回りました。昨年一人にかけた金額と比べると、母の日は昨年 5,063 円から 39 円増加(前年比 100.8%)、父の日は昨年 4,660 円から 76 円増加(前年比 101.6%)といずれも昨年と同水準です(図表 4)。今年実施した、お花見、ゴールデンウィークに関する調査では、いずれも予算の減少が見られた中、母の日・父の日は、物価高の影響を受けにくいイベントと言えるかもしれません。

図表 4



今回の調査結果から、母の日・父の日は、子の立場では、6割前後が「何かをする」と考え、その多くはプレゼントを贈る予定であることが分かりました。一方、親としては特別に何かをしてもらうよりも、「ありがとう」と言ってもらえたり、一緒の時間を過ごしたりと、ささやかなことがうれしいようです。プレゼントを贈ること自体に、母親、父親に対する感謝の気持ちが込められているとは思いますが、感謝の気持ちを言葉で伝えたり、家族で一緒に過ごしたりすることで、より喜んでもらえるかもしれません。

### 使用したデータ

【インテージのネットリサーチによる自主調査データ】 <https://www.intage.co.jp/service/services/marketing-research/net/>

調査地域：日本全国

対象者条件：15～79歳の男女

標本抽出方法：弊社「マイティモニター」より抽出しアンケート配信

標本サイズ：n=5000 ※国勢調査にもとづき性別・年代・地域を母集団構成に合わせて回収

調査実施時期：2026年3月25日(水)～3月30日(月)

【株式会社インテージ】 <https://www.intage.co.jp/>

株式会社インテージは1960年に創業。インテージグループとしてアジア No.1\*であるマーケティングリサーチ/インサイト事業に加えてマーケティングソリューション事業を展開し、9か国の海外拠点とともに国内外の企業・団体のマーケティング活動を総合的に支援しています。事業ビジョンとして“Create Consumer-centric Values”を掲げ、深い生活者理解とデータ活用の高度化による顧客企業支援を通じ、生活者の幸せの実現を目指しています。

\*「ESOMAR's Global Top-50 Insights Companies 2025」に基づく(グループ連結売上高ベース)

**【インテージグループ】** <https://www.intageholdings.co.jp/>（東証プライム市場 証券コード:4326）

インテージグループは1960年の創業以来、さまざまなデータを収集・加工・分析し、当グループならではのインサイトを加えてお客さまに提供。その意思決定を支援してきました。お客さまのパートナーとして「問い」に寄り添い、生活者理解とテクノロジーを融合させて「次の一手」を導きます。

**【報道機関からのお問い合わせ先】**

■株式会社インテージ 広報担当:下河原／森／木地

TEL: 03-5294-6000

サイト「お問い合わせフォーム」 <https://www.intage.co.jp/contact/>